

要人往来

日本政府観光局が5月20日発表した速報値では、今年4月の出国日本人数は前年同月比3.4%減にとどまったものの、2カ月連続でマイナス幅を縮小して需要回復への兆候を示しており、各国からの要人も日本市場への期待感を高めています。



西地中海開発機構のオゼン事務局長(中央右)と中村理事長(中央左)



海南省の何副省长(中央)と中村理事長(左から3人目)



フィジーのバイニマラム首相(左から3人目)と田川会長(左から4人目)



モンゴルのオユンクロル環境グリーン開発・観光大臣(右)



サンディエゴ観光局のテルジプレジデント兼最高取締役(左)と菊間副会長



エチオピア航空のゲブレマリアム最高経営責任者(右)

2020年までに日本人旅行者の倍増目指す モンゴル 4月23日(木)

オユンクロル D. 環境グリーン開発・観光大臣

菊間副会長を訪問し、「1990年代以降の経済成長が著しいモンゴルでは、農業や鉱業に加えて観光産業を開発する方針で、日本からの旅行者数も2020年までに200万人へ倍増させることを目指している」と説明。菊間会長は、「昨年9月にJATA視察団としてモンゴルを訪れ、観光資源の素晴らしさを再認識しており、観光交流の拡大が期待される」と応えました。JATAの原理事は、「両国間の直行便の増加とモンゴル観光局の日本事務所設置が重要であり、双方向の交流拡大に向けてモンゴル人へのビザ免除に取り組むべき」と指摘しています。

知名度高めてアンタルヤへ日本人旅行者を トルコ 5月15日(金)

メクメットS.オゼン 西地中海開発機構事務局長

JATA本部を訪れ、「日本ではイスタンブールとカッパドキアの人気が高いが、今後はアンタルヤの知名度を上げて日本人旅行者にも足を伸ばしてほしい。11月にG20サミット、来年4月から10月まで国際旅行博も開催されるので、アンタルヤをアピールしていきたい」と説明。中村理事長らは、「12月にエルトゥール号の遭難をテーマにした日本とトルコのコラボ映画『海難1890』も公開される予定で、トルコへの関心も高まると期待している」と応えました。

エコツーリズムとゴルフにも注力

フィジー 5月20日(水)

ジョサイア・ヴォレンゲ・バイニマラム フィジー首相

田川会長が訪日したバイニマラム首相を都内のホテルに訪ね、両国間の観光促進について懇談。田川会長は、「日本では、目的・テーマなどを明確にした旅行が求められており、海洋リゾートのフィジーとして、ツアー素材を提供していただきたい」と要請。バイニマラム首相が、「ウエディングやセカンドハネムーンをテーマに日本市場へアプローチしているが、エコツーリズムとゴルフにも力を入れたい」と説明されたのに対し、田川会長は、「送客は航空インフラが基本のため、定期便かチャーター便の就航計画も重要です」と応えました。

日本からの直行便就航で利便性が向上 エチオピア 4月24日(金)

テウォルデ・ゲブレマリアム エチオピア航空最高経営責任者

日本への直行便就航に向けて来日し、中村理事長を訪れて「成田／アジスアバ間の開設により、日本人観光客によるアフリカ旅行の利便性が大きく向上する。観光促進を成功させるためにJATAのサポートをお願いしたい」と要請。中村理事長は、「ローマと東京でオリンピックの男子マラソン2連覇のアベベ選手を通じて、日本人にも親しみの深いエチオピアだが、観光面では十分知られておらず、積極的なPR活動により旅行者の拡大が期待できる」と応えました。

観光開発が進み島内の交通インフラも改善 中国・海南省 5月14日(木)

何西慶 副省长

中村理事長を訪問し、「観光開発が進んだ海南省では高級ホテルやゴルフ場なども整備され、交通インフラの改善で島内の移動も便利になった。関西空港からの直行便も再開され、日本人旅行者も増えてきている」と説明。中村理事長は、「22日から実施される日中観光文化交流団の訪中によって、中国への旅行意欲も高まる見通しで、ビジネス環境が好転すれば、海南省の気候はもっと広がるはず」と応えました。

アクティビティー素材で滞在ツアーを 米国・サンディエゴ 5月20日(水)

ジョー・テルジ サンディエゴ観光局プレジデント兼最高取締役

菊間副会長を訪問し、日本人旅行者の嗜好性などについて懇談。菊間副会長は、「サンディエゴにはテーマパークやワイナリーなど、日本人にとって魅力的な素材が多く、滞在ツアーの目的地として観光促進を図り、アクティビティー素材なども紹介すれば、日本人旅行者が増えるはず」とアドバイスしました。